1996. 8. 7　朝日・毎日・読売・東京・産経・日経・神奈川
朝刊・夕刊　タウンライフ・はまかぜ・その他（

「もう役所だけに、まかせておけない」

主役は市民 強烈アピール

「もう役所だけに、まかせておけない。だから！」。横浜市港南区役所に市民主役を強調したアピールした、こんなキャッチコピーのポスターが張られていた。区が行政主導の地域づくりから脱皮、新しい市民参加の在り方を探けた「港南まちづくり塾」の塾長募集のポスター。役所が自分を軽んじる印象をぬぐかねないが、「職員が固い頭で市民を指導する時代ではない。行政より進んだ市民の発想を教えてもらう」と、区にたたらいはいる。

塾長を求めるポスター。行政主導の街づくりから脱皮を強烈にアピール＝港南区役所

「行政主導」脱却目指し

まちづくり塾長募集

港南区がポスター

●センスを学ぶ

「まちづくり塾」は、市事業の「パートナーシップ推進事業」の一環。人材を掘り起こし、街づくりに積極的に関わってもらい、地域と区との関係をも活性化させることが狙い。塾員五人を公募し、各塾が年間四十万円の費用で、それぞれのテーマごとに活動する。区職員も「市民の柔軟で奇抜なセンスを学ぶ」観点から、内容に干渉せずに塾に参加する。

ポスターの内容は、区が委嘱した学識者、地域関係者ら八人でつくる塾選考委（委員長・前川貴介東京工大教授）が、四回の会議を重ねて、ようやく決まった。二十数点の候補作が委員から提案され、「この指とまれ」に絞り込まれた。

●ブライド超えて

最終的にこのコピー採用にゴーサインを出した高橋（主婦学習室）は部内、神奈川県内など多くの生涯教育関係者の意見を聞いた。「市民から学び、教えてもらう立場だ」と区長。

●塾員募集の一人、昭和女大の西村美東士助教授（生涯学習室）は部内、神奈川県内など多くの生涯教育関係者の意見を聞いた。「市民から学び、教えてもらう立場だ」と区長。

●予想外の効果

塾員募集は六月下旬から始まり、七月末に締め切られた。この間、募集ポスターは区役所、市営地下鉄・バスなど区と五百枚が張られた。区内地域振興課は当初、「十数人の応募者があればいい方」とみていたが、蓋を開けて四十三人が応募。相当数は「コピーの第一印象」の効果があったのかと、驚いている。塾員希望者は居住地、職業などを踏まえ、申し込んでいる。インターネットを使った所沢、西武の多くのワーク化、利用の少ない公共施設の住民側からの提起など、よく練られた内容が多い。塾選考委の選考を経て、塾生は九月初めから務める予定。

事業など長年の役所のノウハウから、意見もプロのブライドはある。が、学校教師、区内の街づくり事業は職員より市民の発想が上手。例えば「区内で最も高が見える場所から新たな街づくりを」と提案された場合、職員はその場所すら知らない。市民から学び、教えてもらえるなら、区はたのもしい。

●「行政主導」は上層部に上げられた段階で、「塾員を形づくり」というのは出口からつぶされるようなもの。区役所は、市民参加の推進のためにもっとかたろう。横浜市は柔軟な発想の職員が多いとほめ、「区から動員をかけられた地域は自己満足的なコピーがいい意味で刺激になったはず」と指摘する。

主役は市民　強烈アピール
H8.8.7/神奈川新聞社
神奈川新聞朝刊